

昭和 55 年第 1 回シグマ特別専門委員会
(シグマ研究委員会)議事録

日 時 昭和 55 年 7 月 1 日(火) 11:00 ~ 17:30

場 所 日本原子力研究所 東京本部第 1 会議室

出席者 塚田甲子男(主査, 日大)

朝岡 卓見(原 研), 浅見 明(高エネ研), 飯島 俊吾(NAIG)
五十嵐信一(原 研), 池上 栄胤(核理研), 梅沢 弘一(原 研)
大竹 巖(動 燃), 小幡 行雄(原 研), 桂木 学(原 研)
神田 幸則(九 大), 菊池 康之(原 研), 木村 逸郎(京大炉)
梶山 一典(東北大), 関 雄次(MAPI), 田坂 完二(原 研)
田中 茂也(原 研), 中嶋 龍三(法 大), 西村 和明(原 研)
原田吉之助(原 研), 久武 和夫(東工大), 弘田 実弥(原 研)
更田豊治郎(原 研), 松延 廣幸(住友原工), 宮坂 駿一(核管セ)
山室 信弘(東工大), 山本 正昭(FBEC)
オブザーバー : 浅見 哲夫(原 研), 川合 将義(NAIG),
松本純一郎(原 研)

欠席者 安, 小林, 百田

配布資料

1. 54 年度第 1 回シグマ特別専門委員会議事録
2. 54 年度運営委員会議事録 (第 1 回~第 8 回)
3. 55 年度運営委員会議事録 (第 1 回~第 2 回)
4. 核データ・センター予算
5. シグマ研究委員会(シグマ特別専門委員会)委員名簿
6. シグマ特別専門委員会内規
7. NEACRP 第 22 回会合
8. 第 11 回 INDC Opening Remarks by Prof. H. Kakihana
9. NEA データ・バンク委員会第 4 回会合

10. 核データ専門部会資料
11. JENDL 積分評価WG資料
12. JUPITER 実験解析の概要
13. 遮蔽定数WG資料
14. 核構造データWG資料
15. 崩壊熱評価WG資料
16. 燃料サイクル核データWG資料
17. 熱中性子文献グループ資料
18. 「JENDL-3計画」メモ
19. 日本原子力学会秋の分科会 核データ・炉物理合同特別会合
20. 「核データニュース」No. 13

議 事

1. 主査の挨拶

2. 運営委員会報告

田中氏より資料(2),(3)をもとに、54年度の運営委員会会合(8回)、55年度運営委員会会合(2回)における主要議題ならびに議事内容の報告が行われた。

3. 事務局報告

(1) 55年度核データセンター関係予算

資料(4)について田中氏より説明があった。

(2) 56年度概算要求

田中氏から資料(4)について概要の説明があった。JENDL-3作成費が例年の要求に加えた主なものである。

4. 人 事

55年度の本委員・専門委員：田中氏から、55年度の本委員については既に郵便による投票で了承がえられていること及び本委員の変更に関し説明があり、新委員の神田氏、田坂氏の紹介があった。

5. NEANDC 報告(塚田氏)

会議の前にBNLのPearlstein氏にENDF/B-Vの公開について質したこと、会議の話題として、BNL-325 4th ed.が近く刊行されること、IAEA NDSではcharged particle dataにも力を入れようとしていること、IAEA Consultants' Meeting on Neutron Source Propertiesのこと(詳細については資料(20)「核データニュース」No.13に記載)、Standard and Discrepancy Subcommitteeのこと等の説明があった。また、regional conf.については、日本は小規模のものならできると返答したこと、次回の国際会議は1981年にアントワープで行うことになったことが報告された。

6. 主査の選出

田中氏から、資料(6)により内規の確認が行われ、選挙の立合人として浅見(明)、楢山、山室、山本氏(以上監査小委員)及び田中氏が選出された。出席者のうち有権者が27名で選挙が成立していること(22名以上で成立)が確認され、投票に入った。投票の結果、原田氏が17票で新たに主査に選出された。

7. NEACRP 報告(弘田氏)

資料(7)をもとに概要の報告があり、とくに感度解析が炉心の大きさに関係することが問題になったこと、covariance fileが必要であること等の説明があった。

8. INDC 報告(原田氏)

資料(8)をもとに、INDC及びIAEAのNDSの方針ならびにかかえている問題等を中心に報告があった。その中で、今後、IAEAのNDSはsafeguards, safety, radiation damage及び発展途上国への援助を最優先にとり挙げるので、NDS主催の核データ関係の国際会合はかなり制約を受けるとの説明があった。

9. NEA データ・バンク委員会報告(田中氏)

資料(9)をもとに報告が行われた。その中で、中性子実験データのフォーマット変換作業の実状、長期プロジェクトに関する議論等の報告があり、その中で、西独から提案のbenchmark centerについては反対が多かったとの説明があった。

10. 各専門部会活動報告及び活動計画

(1) 核データ専門部会

五十嵐氏から資料(10)により54年度の活動状況ならびに55年度の計画について説明があった。

(2) 炉定数専門部会

菊池氏から資料(11)によりJENDL積分評価WGにおけるJENDL-2のベンチマーク・テストの概要の説明及び資料(12)によりJUPITER実験解析の概要の説明があった。宮坂氏から資料(13)により遮蔽定数WGでのトピックスとして ^{56}Fe の27 keV共鳴散乱の異方性の問題、遮蔽解析における鉄の共鳴自己遮蔽効果の説明があった。

(3) 核構造・崩壊データ専門部会

久武氏から専門部会の概要の説明の後、田村氏から資料(14)により核構造データWGにおける質量連鎖評価の現状と今後の作業予定、核図表の改訂等の説明があった。中嶋氏から崩壊熱評価WGの作業状況とくにDecay Data Library作成について資料(15)により説明があった。梅沢氏から資料(16)により燃料サイクル核データWGの活動の概要について説明があり、とくに、このWGは今年度中に終了しまとめを行いたいとの説明があった。

11. JENDL-3 構想

原田氏から資料(18)を用いて説明があった。現在、JENDL-3検討小委員会において検討を進めているが、JENDL-3の作成は55～58年度に行い、59年度にベンチマーク・テストを経て59年度末に公開の予定である等の説明とともに多くの方々のアドバイスや協力をお願いしたいとの話があった。

これに関連して、国際会合でJENDLのPRをもっと行って欲しいとの要望ならびに現在行っているアンケート調査のこと、水素断面積の問題等について議論があった。

12. 核データニュース

浅見(哲)氏から、「核データニュース」の編集上の新たな計画として、論

文等の一般投稿を掲載することについての運営委員会の議論の経緯の説明があった。また、梶山氏よりこの計画の主旨、意義について資料(20)「核データニュース」No.13の記事を用いて説明があった。

これに関連して既存の学術雑誌の編集の変更も必要であるとの意見があった。

13. 1980 研究会

飯島氏より、現在、運営委員会で行っている議論の大筋について説明が行われ、研究会の開催は12月上～中旬とし、主要テーマには JENDL - 2 の現状、JENDL - 3 のスコープ、covariance file と感度解析等を予定しているとの説明があった。

14. 国内国際会合

(1) 学会特別会合

松延氏より、原子力学会の秋の分科会で行う「核データ・炉物理合同特別会合」のプログラム(資料(19))のアナウンスがあった。

(2) 原子力総合シンポジウム

松延氏より、近く学会の企画委で審議を行うので主調テーマについてのプランがあったら出して欲しいとの要請があった。

(3) 国際会合

田中氏より、「核データニュース」No.13の行事予定(資料(20))をもとに、今後の国際会合の説明があった。

15. その他

(1) 木村氏より国際会議を日本でやることの可能性について質問があった。

(2) 山室氏より核データに関連のある科学研究費の紹介があった。

(3) 五十嵐氏より、WRENDAのための調査への協力の要請があった。

(4) 田中氏より、Progress Report への協力についての要請があった。